

1 学校教育目標	
「笑顔で元気な大川内っ子」の育成 — あいさつ 返事 意思表示 —	

2 本年度の重点目標	前年度の成果と課題
I 瞳を輝かせて学ぶ子「知」…楽しく学ぶ II 心豊かなやさしい子「徳」…やさしく接する III がんばりぬくましい子「体」…たくましくやりぬく IV ふるさとを愛する子「地域連携」…感動を届ける	○校内研究を核とした授業力の向上と少人数学級を生かした個別指導の充実により、学力向上を目指し、ある程度の成果をあげることができている。さらなる、学力向上のために、学力の実態把握と指導法を共有化することで、組織として系統性・連続性・継続性を持たせて、充実させていく。 ○人前で自分の言いたいことがすぐに言えない等、コミュニケーションに課題が見られる。特に授業改善については、国語科を中心に表現力の向上を目指す。 ○授業力(指導力)向上により、児童の学力向上を最大の課題とする。 ○素直に頑張る子どもが多く、地域講師による体験活動や読書を通して豊かな心を育てる取り組みは成果を上げている。しかし、あいさつや言葉づかいについては、地域からの評価が低いため、今年度は家庭の協力を得ながら、心を育てる取り組みの充実を図る。 ○読書活動について、下学年から上学年へ系統的に、量から質への課題を持たせる。また育友会と読書への意識を共有し、家庭学習の充実と家読の拡充を図る。

3 目標・評価

① 確かな学力の向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当 分掌 (部)	担当者
教育活動	●学力の向上	○志を高める教育	とで自己有用観と自己肯定観を高める。	・学級や全校で一一人の出番を作り、取組を称賛する。	特活	全教職員
		◇西部型授業づくり	・日々の授業において、西部型授業の実践を行い、指導技術をみがき、児童の確かな学力の向上をめざす。	・指導技術の基礎基本(必須5項目)を理解し実践する。特に、児童の表現する力を高めるために自分の考えを相手に伝える活動を学校全体で取り入れ、「自分の思いを伝える」ことに力を入れる。	学力向上 研究主任	小柳 森
		◇基礎基本の徹底 ◇個別支援体制の充実	・漢字力検定の合格率を95%以上にする。 ・休み時間を利用して個に応じた指導を充実させる。 ・級外職員によるTTの指導を活用する。	・せいらの子タイムで漢字力、計算力を鍛え、補充学習の充実を図る。 ・国語、算数を中心に基礎・基本の理解を確かめ、定着を図るために、毎日、宿題を課す。	学力 向上	小柳
		○授業と家庭学習との つながり	・宿題だけでなく、自主的に家庭学習ができるようにする。 ・学年に応じた宿題を出すようにする。	・家庭学習(宿題)の出し方について共通理解を図り、学年に応じた自主学習を推進する。 ・「家庭学習の手引き」を活用し、保護者との連携を図る。	学力 向上	小柳
		○ICT利活用教育の推進 ○情報モラルの指導	・電子黒板の効果的な活用を行う。 ・情報モラルの指導を教科等の年間計画に位置付けて計画的に実施する。	・日常の授業の中で全職員が電子黒板を積極的に活用する。 ・保護者対象に情報モラルに関する研修会を実施する。 ・情報モラルの指導に使った資料を集め、お互いに活用できるようにする。	情報 教育	大曲
◇読書活動の推進	◇読書の奨励 ◇家読の推進	・学年の目標を決めて、多読に挑戦させる。(低学年:90冊、中学年:70冊、高学年50冊) ・ノーマディアと家読週間に、家読に取り組む家庭を90%以上にする。	・市民図書館と連携し、図書室や教室の読書環境を整える。 ・おすすめ本の選定、多読表彰等の読書に親しみ取り組みをする。 ・図書館祭りをして、子ども達の読書への興味を高める。 ・育友会と連携し、リレー家読を行い、読書を通して家族の触れ合いの場を設ける。	文化部	古竹	

② 豊かな心の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当 分掌 (部)	担当者
教育活動	●心の教育	◇元気なあいさつや温かいことばで交流する児童の育成	・「あいさつができて」と意識できている児童の割合を90%以上、地域、保護者80%以上にする。 ・「言葉づかいに気をつけている」という児童の割合を90%以上、地域、保護者70%以上にする。	・強化月間(4月、9月)には、月目標に取り上げ、全校で取り組む。 ・場に応じた言葉づかいができるように、全職員で日常的に指導する。 ・学級指導や道徳などで、児童の実態に合わせて取り組み、意識の向上を図る。	生活	齋藤
		○心の教育3点セットの活用	・いのちの教育指導資料集の教材を道徳の授業に生かす。 ・伊万里っ子しぐさカレンダーを学級指導に生かす。 ・季節の童謡に親しませる。	・「人権意識」や「命」をテーマとした「ふれあい道徳教育」を授業参観で公開し、地域保護者も巻き込んで考えるようにする。 ・伊万里っ子しぐさの中から、実態に応じて取り上げて指導していく。 ・季節の童謡を朝や掃除の時間に流し児童に親しませる。	文化 道徳	松尾
		◇特別支援教育の充実	・就学相談を計画的に実施する。 ・特別な配慮を要する児童に対する理解を深め、個別の支援計画に基づき支援を行う。	・特別な配慮を要する児童について、知能検査、CRT検査の結果も参考にしながらリストアップし、丁寧な見取りを行う。 ・保育園と連携し、就学相談を行う。 ・校内就学支援委員会を8月に実施する。 ・夏季休業中に専門家を招聘しての研修を行い、個別の支援計画について見直しを行う。	特支口	古竹
●○いじめ・不登校 問題への対応	◇教育相談の充実	・開発的な教育相談に力を入れ、不登校傾向児童0を目指す。 ・困っている児童の把握と心のケアを行う。 ・SC、SSW、専門機関と連携を図りながら支援する。	・6月、10月にアンケート調査を行い、児童の友人関係や悩み等を把握する。 ・教育相談週間を設け、全児童を対象に個別の相談を実施する。 ・困っている児童について毎週情報交換の機会を設け、職員の共通理解を図るとともにSC、SSWと情報交換を密にし、連携を図りながら支援する。	教育 相談	徳永	
	◇いじめをなくす風土づくり	・日常的な指導の中で児童一人一人を把握し、全教職員が一体となってきめ細かな指導を行いながら人権意識を高める。	・児童のよさをみつけ、ほめる機会を増やし自尊感情を高める。 ・いじめのサイン発見シートや生活アンケートを活用し、いじめの未然防止・早期発見に努める。 ・ほのぼのタイムや学級活動、道徳の時間に発達段階に応じた指導を行い、人権意識を高める。 ・いじめ防止基本方針を策定し、いじめ防止対策委員会を中心に実態に応じたきめ細かな指導を行う。	特活	松尾	

③ たくましい心と体の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当 分掌 (部)	担当者
教育活動	●健康・体づくり	○食育の充実	・家庭や地域と連携を図りながら食育指導を行う。	・栄養教諭の協力を得ながら食育指導を行い、家庭にも学級通信等で内容を知らせ、意識の向上を図る。 ・親子餅つき大会、給食試食会など、保護者も参加できる食育指導を実施する。 ・農業体験(米・大豆)を通して、食に関心を持たせる。	食育	徳永
		◇体力向上	・年間を通して運動に親しませ、体力の向上を図る。	・相撲週間、水泳クラブ、持久走月間、縄跳び等の校内での取り組みや対外試合への参加を通して運動に親しませ、体力の向上を図る。 ・週1回のなかよしタイム(縦割り活動)で、鬼遊び、ボール遊びなど運動に親しませる。	保体	喜多
		◇心身の健康づくり	・検診の結果、歯科の要治療の受診率を70%以上にする。 ・インフルエンザ等の感染症について注意を呼びかけ、予防に努める。 ・命の尊さを知らせる。 ・発達段階に応じた健康教育を実施する。	・保健だよりや学級便り等で受診の呼びかけをしたり、必要があれば個別に保護者へ連絡をする。 ・日々の健康観察や保健室来室状況で気になることがあれば管理職に報告し、児童への指導を行う。 ・「命」をテーマにした教育講演会を実施する。 ・6年生を対象に防煙教室・薬物乱用教室を実施する。	保体	徳永
	◇なかよしタイム ◇集会活動の充実	・なかよしタイムを通して、自分の役割や立場を自覚し、自主性や社会性を育てる。 ・集会活動に意欲的に参加させる。	・なかよしタイムを週1回行い、高学年に人前で話す経験やリーダーシップやフォローアップを発揮する場を与える。低学年児童には、集団の中で協同して行動することを学ばせる。	特活	松尾	
◇学級活動の指導	・話し合い活動を中心に、子ども達が自主的に良い人間関係を育む授業作りを実施する。 ・学級会で、全ての児童が必ず自分の考えを発言できるようにする。	・各学年に応じた話し合いの進め方や司会マニュアル等を作成し、児童の発達段階に応じた指導をする。 ・児童の学級会ノートに目を通し、励ましや称賛のコメントを書き入れ、児童が進んで発言できるように支援する。 ・児童集会以感想交流の場を設け、全校の前で意見が言えるようにする。	特活	森		

④ 地域の核となる学校づくり						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当 分掌 (部)	担当者
教育活動	○特色ある学校づくり	◇青螺の学び舎づくりの充実・推進 (地域・保護者と共に育てる)	・学校行事だけでなく、授業公開への参観者を増やす。7月、10月、1月の参観者を保護者85%、地域住民30名以上とする。 ・学校評価を実施し、保護者や地域の方々の意見や考えを学校運営に反映させる。	・青螺の学び舎づくりの行事の精選と充実をはかる。 ・授業公開と講演会を組み合わせる等の工夫を行い、魅力ある公開日となるようにする。 ・6月に学校公開日を設定し、自由に参観できる場を設ける。 ・12月に学校評価を実施し、保護者や地域の方々、学校評議員等の意見や考えを教育活動の中に生かす。	校長 教頭	中山 白濱
学校運営	○幼・保・小・中連携	◇園児・児童交流の推進 ◇共通指導項目の徹底 ◇情報の共有化	・園児・児童の直接交流、保育士体験を実施し、実態を把握する。 ・情報を交流し、共通の課題をつかむ。	・田んぼの学校(田植え・稲刈り)で交流する。学校に招いたり、保育園を訪ねたりして双方向の直接交流を行う。 ・夏季休業中に大川内保育園の年長組を主に参観し、配慮が必要な子についての情報を得る。	教務 1担 6担	大曲 久保 齋藤

⑤ 働き方改革の推進						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当 分掌 (部)	担当者
学校運営	○やりがいのある職場環境づくり	◇相談し合える職員の雰囲気づくり	・職員が仕事の進み具合で困っていることなどを自由に言い合える環境づくりをする。 ・学期毎に、子どもたちと向き合う時間の確保についての現状を確認する。	・チーム大川内として、互いに声を掛け合い生徒指導や特別支援教育上の諸問題への積極的な相談ができる雰囲気作りを行う。 ・子どもと向き合う時間の確保における課題を解決するために級外による担任への協力や支援を行う。	校長 教頭	中山 白濱
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○会議や事務の効率化 ○校務サーバーの利活用 ○定時退勤日の実施	・パソコン等のコンピュータを有効に活用し、会議や事務の効率化を図る。 ・文書のデータを校務サーバーに保存、整理する。	・資料の事前配付と、資料を読んでからの参加を徹底したり、会議の開始、終了時刻を厳守する。 ・校務分掌や教材研究等に対する時間削減のために、文書や授業の教材等を校務サーバーに保存し、有効活用する。 ・タイムマネジメントの意識化を図り、定時退勤日の確実な実施を行う。	校長 教頭	中山 白濱

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当 分掌 (部)	担当者
学校運営	◇学校経営方針	◇本年度の重点目標の周知	・重点目標の周知率を児童95%以上、地域・保護者80%以上とする。	・全校朝会の校長講話で取り上げ、学級指導へとつなげる。学年の実態に応じた実践化をはかる。 ・青友会総会、地域の会議、学校だより、ホームページ等で家庭・地域の協力をよびかける。双方向の通信となるよう工夫し、取り組み例や声を紹介し、重点目標の実践化をはかる。	校長	中山
	◇教職員の資質向上	◇校内研究の活性化と学級経営力の向上	・全担任が、年間1回以上の研究授業を実施する。 ・全担任が学級経営案を作成し、各評価項目で90%以上の達成を目指す。	・講師招聘を積極的に行い、理論研究・授業研究を行う。 ・学級経営案を懇談会で保護者に説明し、目標が日頃の学級経営で達成できるように常に意識して取り組む。 ・日々の会話、授業を参観し合いながら、適切な指導を随時行う。	教頭	白濱
	○危機管理	○通学路の安全点検及び安全指導 ○食物アレルギー等への対応	・危機を未然に防止するための資質・能力を高める。 ・地域見守り隊と連携し、通学路の危険箇所を把握する。 ・食物アレルギーを持つ児童を確実に把握し、対処する。 ・危機にあわなないための対応を行う。	・通学路の安全点検及び安全指導を実施する。 ・集団下校時の話で、随時指導をしていく。 ・地域の見守り隊との連携を図る。 ・食物アレルギーを持つ児童を把握し、給食センター・担任・級外と連携し対応する。 ・食物アレルギー研修会を実施する。	教頭 給食	白濱 徳永

●は県の必須項目 ◎は県の特定課題 ○は市の共通評価項目 ◇は本校の独自評価項目